

# 白門ライオンズ会報

Quarterly of Lions 2023.7-12/2024.1 No.31

東京白門ライオンズクラブ <http://hakumon-lions.org/>



山浦元国際理事から表彰を受ける鈴木理事長、中山終身名誉会長、榎元会長 中央大学杉並高等学校ダンス部によるお祝いのダンス演舞



東京白門ライオンズクラブ 20周年記念大会 於 ハイアットリージェンシー東京 (2023年11月26日)

中央大学  
東京白門ライオンズクラブ  
TOKYO HAKUMON LIONS CLUB



# 追悼 鈴木誠L



2023年12月19日(火)、東京白門ライオンズクラブのチャーターメンバーであり、終身名誉理事長を務めてくださった鈴木誠Lが急逝されました。88歳でした。

同じくチャーターメンバーであり、終身名誉会長の中山正暉Lより追悼文を頂戴しました。



20周年記念大会で元気に閉会宣言のご挨拶をされた故・鈴木誠L

鈴木誠先生に捧ぐ追悼文  
 衝撃が走ったのは白門ライオンズクラブの  
 来年の予定の打ち合わせを榎本部長さんと  
 電話でよくその電話を終ると五分を経た  
 ず、榎さんの電話で鈴木先生が亡くなった  
 知らせの一報でした。余りにも突然に  
 御訃報を耳にすると私に血の気が引  
 いて行くそれまで感じたことの無い悲しみ  
 切無き世の無情が身に沁みまわった  
 白門ライオンズ二十周年をお逢った折  
 ある体調の不具合を解決する為  
 四月間入院治療をよつづつと思  
 してたが完治しずれたと聞か  
 矢子居られたのには思もなしに突然の  
 御逝去の知らせは倒れに堪えられ  
 逢うは別れの初めと流世の定めとは  
 知り乍ら幽明境を異にする現実に打  
 植られる思いでした。  
 思えば私に勤めた泉議院から  
 引退してわが中大学員会会長  
 に就任した折榎さんからの依頼を受け  
 新宿ライオンズクラブ創設四十五周年の  
 記念式典での記念講演を依頼され  
 た大会終了後新宿ライオンズ副会長  
 鈴木誠先生と筆頭に榎さん他の  
 智恵で中央大学卒業生を中心と  
 する白門ライオンズクラブが設立され  
 奇しくも鈴木先生が副会長私  
 初代会長となり鈴木先生の御指導  
 を頂戴して発足することになり二〇年の  
 思ひ出深い歳月が流れました。

鈴木先生一方の力を御自身の  
 お宅に設えられたカラオケルームと  
 利用を会員の親睦融和の為御家族  
 も相和して御協力賜る等御自宅  
 を開放会員団樂する場と永年は渡  
 フラメ会員一同を家族の様な雰囲気  
 を醸成とて下さいました。個人的な話で  
 恐怖が私に私と描く趣味に気が付  
 かれた無使の絵にマダラの馬車、ボクボラス  
 海峡の日出等榎さんの数々の刻字  
 書道表の芸術作品と共にカラオケを  
 去る絵や書が目を惹きませる心遣い  
 までして下さりました。鈴木先生の美声  
 が憧れのハイブリット、今更に残る事  
 鳥取が昭和十年に生を受けた三十九年に  
 辯護士東京美二辯護士金融不動産  
 その他民事で活躍平成十八年の春は  
 天皇陛下から旭日中綬章を受章  
 一方趣味も高いと短歌と探り世界に通じ  
 仲間も多数と人間をいさます心も  
 心より感謝申し上げます。政界  
 に身を置いた私に御挨拶に御配慮  
 下さり私に頂戴しました。  
 懇優し、お人柄天國では天使に用られ  
 御釈迦様には蓮の台に迎えられるお  
 れるお姿を思済む存じ奉  
 気懸りは順子奥様のごと御息  
 孫方共天國からの御主人様の  
 御見守りものと平穩無事と私共  
 一同祈りして色々お世話に有りませ  
 と感謝の念を籠めて追悼の辞と尋

中山正暉

## 鈴木誠Lを偲ぶ会 第30回校歌を唄う会

を開催します

4月27日(土)「第30回校歌を唄う会」の開催を予定しておりましたが、鈴木誠Lのご逝去に伴い、鈴木誠Lの偲ぶ会を行います。詳細は追ってご連絡させていただきますが、当日ライオンの皆様にはぜひご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。

# 2024年 新年のご挨拶

終身名誉会長 中山 正暉

新春を寿ぎ新年の弥栄をお祈りします。

「神は世界を統治する。その統治の内容、その計画の遂行が世界史である」とする諺があります。

『平和』と日本では書き中国では『和平』と漢字が使われています。

『平』とは天と地の間に人を配し構成された天と地の間に人間を平等に扱う意味があるとされます。俗に言う弥次郎兵衛人形のことです。玩具の一つですが、短い棒に湾曲した細長い横棒を付け、その両端に重しを取り付けたもの。指先などで立棒を支え、釣合をとって倒れない与次郎人形。釣合人形。正直正兵衛。等々と言われたものです。

つまり『平』とは天と地の間に存在する人間を公平に扱う人権擁護精神を字に表現したものです。ちなみに「影護」とする言葉もあり、影が形に随うように神仙がその身を離れず擁護する表現があります。

繰り返しになりますが、天と地の狭間に差別を無くし人間の平等を確保することです。

『和』は『禾』『ノ木偏』『禾偏』と書き、漢字の偏の一つで、「稲」「秋」などの「禾」を現し『穀物』を意味します。米、大豆、小麦、燕麦、粟、稗、黍、玉蜀黍、豆等を現します。『和』とは「穀物」を人の「口」に入れる、つまり、人間生存の基本の「食事」を確保する食べ物を人の口に入れる形になっています。

ついでに「食事」とは「人」に「良」いものを「占」って決める。「事」とは筑竹を壺に入れて占象<sup>うらかた</sup>によって神意を問い、吉凶を判断することです。大袈裟な話になりますが、つまり「人に良いものを選んで決める」それが字になったのが「食事」なのです。

「武力」の「武」は「文」を止めるとされているのですが、これは紛争を終わらせ平和の世を築くのが勝者の築く平和で、第二次世界大戦で日本は広島・長崎に原爆投下されて平和が来たのであり、平和は勝者の武力で制圧した後の世界が「平和」なのです。徳川 264 年の世界で稀に見る平和な時代が築かれたとされま

すが、「どうする家康」の家康は幾多の戦乱を総ての 264 年の平和は武力で築いた平和なのです。

広島・長崎の原爆投下はそれ以後の兵士の犠牲を無くし、戦争を終わらせる最適の道だったとアメリカの世論を誘導して現実化させる道だったとされています。

ユダヤ教はモーゼに端を発した 600 年後にユダヤ教のモーゼの墓もない宗教をユダヤ人以外にも広めようとユダヤ人にとって神とされるキリストが敵国ローマにキリスト教の本山を築き、西欧諸国にキリスト教の伝播を試みました。

東ローマ帝国は、又 600 年後に出現したムハンマドのモズレム勢力によって東ヨーロッパで制覇され脱出した勢力によって東上したキリスト教の一派がロシア正教を立てました。

プーチンはソ連時代の領土や歴史上の過去の支配の再現を夢見てウクライナ侵攻に着手。

モズレムのハマスはシーア派・スンニ派の一派がサウジアラビアとイスラエルの親交を阻止する策謀からハマスが突然イスラエルを攻撃世界三大宗教が神の手を忘れ世界の混乱の邪悪な人間社会を作り出しています。

アダムとイヴが蛇に騙されて以来、地球最後の場面が大洪水で訪れようとしたとき、ノアが箱舟でセム・ハム・ヤベテの息子達と多数の動物を載せて荒波に運命を託し、やがて鳩がオリーブの葉をくわえて帰って来てアララテの山に到着したノアの箱舟の歴史とされる世界は現世に何を考えさせるのでしょうか。

平和が勝者の武力行使の結果であることをいう、情けない現実を平等に神のもとに平和の計画が地球を統治する神の計画として実現されたいものです。

「龍となれ 雲自ずと来る」。私が青春の意気に燃えていた頃のモットーでした。天と地を神の使いとして人間が生み出した龍神の年が十二の干支の中で唯一空想上の存在です。

新年が平和実現に歩み始める期待へと龍が舞い降りる年へと祈りたいものです。

会長 根岸 清一

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年は、11月26日に、20周年記念大会を成功裏に挙行することができましたことを、何よりも喜び合いたいと思います。

中山正暉名誉会長もお元気で大会に出席されました上に、歴代会長が、参加の皆様にお礼のご挨拶を差し上げられたこと、嬉しかったですね。また、中大杉並高校ダンス部のダンス演舞や、中大応援部の演奏・演武と、まさに大学系ライオンズクラブの特質を存分に発揮することができました。参加の皆様から、大いにお褒めの言葉を頂きましたことは、当クラブのチャーターメンバーから、現役学生までに連なる中大愛の昇華の賜物だと思えます。

さて、辰年の 2024 年は、新生白門ライオンズのスタートの歳とも言えます。

白獅子会の育成・クラブアクティビティの充実・会員増強という事業活動に力を入れて行くことは、当クラブの重要な使命ではありますが、そのためにも、本年は、会員相互の親睦にも力を致したく思います。会員の誰もが参加したくなる例会に行きたいと切望致します。また桜を見る会をはじめ、各種行事も会員本位に、クラブ会員が参加したくなる会合・行事にするべく、知恵を出し合いたいと存じます。

インフレの影響で、例会等の経費が上昇傾向を続けています。クラブ財政の充実も喫緊の課題です。これもみんなの力で解決するしかありません。

課題も山積していますが、会員の力を結集して、充実の一年にたく存じます。今年も宜しくお願い致します。例会でお会いしましょう。



寄稿

## 神々の伴走

L 木村 実牙男

(第56回箱根駅伝〈昭和55年〉3区で出場、57回〈昭和56年〉主将として1区で出場)



中央大学白門ライオンズクラブ会員のみなさまへ  
平素より中央大学陸上競技部に対し、ひとかたならぬご支援とご声援を賜り、誠にありがとうございます。とりわけ箱根駅伝チームには物心両面わたるご援助を頂戴し、感謝に堪えません。紙面をお借りして、改めて御礼申しあげます。

さて、いよいよ駅伝シーズンの幕開けとなりました。

まずは大学三大駅伝のひとつである「出雲全日本大学選抜駅伝競走」です。出雲大社正面鳥居前から出雲ドーム前までの計6区間(45.1km)のコースで、選抜された21チームの出走となりました。

わたくし木村は開催日である10月9日の前日に現地入りし、陸上競技部OB会の4名と自動車に便乗し、コース全区間を視察しました。すると、あたかも自分が当事者であるような錯覚に陥ってしまい、ゴール地点に着くころには手汗でハンドルがグッショリするほどの緊張感を覚えました。そして、いまや心持ちは選手となってしまっているわたくしは「駒澤大学の牙城を崩すのは中央大学しかない!」との確信を持つに至ったのです。

大会当日、開始前には出雲大社に参拝。主祭神の<sup>いづものおやしろう</sup>大国主命<sup>おおくにぬしのみこと</sup>をはじめとした当地に鎮座される神々に必勝祈願を済ませ、スタート地点に向かっていると、銅鳥居が大きくなるにつれ、向こうから中央大学の応援団も歩いてくるではありませんか。この多くの参拝客の中での必然、神さまが縁を結んでくれたのでしょう。言葉少なに自己紹介と挨拶を交わし振り返ると、そこには共通の思いである「優勝」の二文字が浮かんでいるような気がしました。

出雲の空は厚い雲に覆われていましたが雨が落ちてくることはなく、まあまあといえるコンディション。ただ体感的には「幾分、暑いかな」と思いました。

当日の最終エントリーで吉居大和選手が欠場となりましたので、厳しい戦いを強いられる可能性も出てきたのですが……それでも我が中央大学、わたくしとしては「充分、3位には食い込めるだろう」と予想していました。

やがて号砲が響き、レースが開始。浦田選手も勢いよくスタートを切ることができました。ところが遅れ気味だった3区終了時点で、ずるずると順位を関東地区最下位まで落としてしまいました。それでも4区の阿部選手が前との差を詰め、5区の溜池選手が追い抜きました。さらに6区の湯浅選手が主将の意地を見せて区間2位となり、中央大学は2時間12分27秒で7位となりました。余裕で枠配分の資格は得たと思うものの、いささか不完全燃焼の結果となりましたが、浦田選手の三大駅伝への初出場での経験値獲得を筆頭に中央大学チームとしての十分な収穫もあり、また課題も浮き彫りになった大会だったと思います。きっと課題を克服し、さらなる飛躍をしてくれることでしょう。

最後にいまいちど、選手たちの無事故での完走をご加護くださった出雲の神々にお礼を述べ、帰路につきました。

つづいて約1ヶ月ののち、11月5日に第55回全日本大学駅伝対校選手権大会(全日本大学駅伝)が、熱田神宮西門前～伊勢

神宮内宮宇治橋前(8区間・106.8km)のコースで開催されました。

気温は20℃を超える季節外れの暑さ、そこに高い湿度が加わる過酷な環境の中、参加27チームにより熱戦が繰り広げられました。

わたくし朝の7時前にはスタート地点に到着し、そのまま熱田神宮に必勝祈願の参拝をしました。主祭神の<sup>あつたのおおかみ</sup>熱田大神は、三種の神器のひとつである<sup>くさなぎのみつるぎ</sup>草薙神剣<sup>みたましろう</sup>を御霊代すなわちご神体として祀るもので、天照大神の<sup>あまてらすのおみかみ</sup>こととされます。さらに草薙神剣は、わたくしが平日頃に参拝している三峯神社の御祭神である日本武尊が天照大神から下賜された聖剣で、なにか不思議な<sup>えにし</sup>縁を感じざるを得ません。その地をスタートに天照大神の鎮座される伊勢の地にある神宮をゴールとするレースは、あたかも八百万の神々が伴走くださるようで感慨深いものがあります。

参拝を終え、スタート地点である西門前に引き返すと、すでに各大学の関係者や運営スタッフが集結していました。各校のOB・OGが打ち鳴らし響く応援の太鼓。そんな熱気の中、中央大学学員が陣取る応援場所を発見し、陣中見舞いにお伺い……。しかし、はやる気持ちから、すぐにその場を離れ、早々とコースに先回りを行いました。

全日本大学駅伝は全8区間で、コースは10km前後の短い区間と7区や8区のように距離が長い区間が混在しています。そのため3区、7区、8区にはエース級を当てるのが重要ポイントとなってきます。

出雲駅伝ではスタートで出遅れ、立て直すことができないまま7位に終わりました。そのため今大会ではぎりぎりまで相当に検討がなされたようで、ようやく出走当日の朝にエントリーメンバーが確定しました。1区に吉居駿介(弟)選手、2区に中野選手、3区に吉居大和(兄)選手という布陣が敷かれ、前半での勝負、そして逃げ切りのレースと、わたくしは睨みました。さらに悪くても2位でゴールするものとの期待も膨らみました。

ところがエースの吉居(兄)選手がまさかの失速で、順位を5位から7位に下げてしまいました。しかしながら、4区の溜池選手が区間3位と奮闘。さらに初出場の1年生・本間選手が5区で区間5位、同じく初出場の吉中選手が6区で区間4位と巻き返しました。そして重要区間の7区では湯浅選手が区間2位と快走、最終区間8区では阿部選手が区間4位と獅子奮迅の走り見せ、結果は4位ながら、その手に汗握るデッドヒートぶりは打倒駒澤大学への意地と覚悟を見た思いです。

来る記念すべき箱根駅伝第100回大会に向け「再び動かす真紅の歴史」が観られることを祈念します。そして本番に向かっては、事故や怪我なく、最高の調整をして、優勝への着実な歩みを進めて貰いたいと思います。

出雲駅伝、そして全日本駅伝——あたかも神々が伴走してくださっているが如く、素晴らしい走りを見せてくれた選手たちに最大の称賛を贈り、わたくしの観戦レポートとさせていただきます。応援ありがとうございます。そして引き続き、宜しくお願ひ申しあげます。合掌(2023年11月末寄稿)



# 第100回箱根駅伝 トラブルの中に見えた中央大学の光明

し 櫻井 俊宏



2024年第100回箱根駅伝、駿河台キャンパスにおいて行われた中央大学オンライン&パブリックビューイング応援イベントのメインコメンテーターを、元主将の関口康平さん、井上大輝さんと務めた、櫻井俊宏です。

中央大学関係者のみなさんは、今年の13位という結果には憔悴しきっているでしょう。ですが、何が起ったのか話しつつ、来年に向けて元気が出る話や、私達ができることについて話したいと思います。

ご存じのように、今年の中央大学チームは、直前の合宿において、集団で風邪に感染してしまいました。その数、なんと16人中14人との報道。この合宿は、箱根駅伝出場選手を決めるため毎年行われていたものなので、やらざるを得ないものでした。関口さん、井上さんによると、普段の寮生活は2人部屋なのですが、合宿は集団部屋になるので、集団で感染してしまったものではないかとのことです。

また、報道でも言われているように、身体の仕上がりが絞られているほど、免疫力が下がり感染しやすくなるそうです。報道された意見を総合すると、4区を走った主将湯浅仁選手、7区を走った2年吉居駿恭選手以外は感染したことになります。

経験者の話によると、直前に風邪等に感染し1日以上練習をしないととなると、その練習の遅れを取り戻すのに1か月ぐらいかかるようです。

昨年99回大会の駒澤大学エース田澤廉選手が、箱根駅伝の1か月前ぐらいにインフルエンザにかかったことで、それなりに走りに影響があったことから、その大変さがわかると思います。

往路に据えられた中大最大級の実力者たち、1区溜池一太選手、2区吉居大和選手、3区中野翔太選手が、それぞれ区間19位、区間15位、区間20位に終わったことから、この3人は風邪の影響を受けていたことは明らかでしょう。

しかしながら、そのように考えると、光明もあります。

5区1年生山崎草太選手は、事前に、藤原監督が秘密兵器として想定していた山のスペシャリストでした。12月の奥多摩溪谷駅伝では、登りの区間である3区で、区間記録を30秒近く更新した選手です。やはり登りに強かったのです。体調がかなり悪かった可

能性が高いのに、区間14位。この1年生スペシャリストの登場により、しばらく箱根駅伝5区には困らないでしょう。

6区、3年生浦田優斗選手も、体調不良の可能性が高かったにも関わらず、区間5位。もう、「浦田元監督の子」という冠はいらなないでしょう。下りのスペシャリストであることに疑いの余地はありません。

9区、2年生白川陽大選手も、はじめての駅伝にも関わらず、9区という復路エース区間を、16位というタイムで駆け抜けてくれました。

10区、1年生柴田大地選手も、1年生で10区を走った選手では全大学歴代2位のタイムで、区間9位と好走。

そして、何より、7区、吉居兄弟の弟・吉居駿恭選手は、兄・大和選手の給水という力水も得るシーンもあり、区間賞!

卒業する湯浅仁選手、兄・吉居大和選手、中野翔太選手の魂の走りを見て、これからについて安心させるため、奮起したことでしょう。これまでは、吉居駿恭選手は、自らトラック競技より駅伝は苦手、と漏らしていたそうですが、その苦手意識は、今回完全に払しょくされ、正にエースとなった瞬間だと思います。

そして、8区阿部陽樹選手は、一説によると肺炎に近い状態であったにも関わらず、力を出し尽くして、たすきをつないでくれました。

特に、風邪にかかっていない4区・湯浅選手区間3位、7区・吉居駿恭選手区間賞の結果を見ると、万全の体調で勝負のかかったシーンだとしたら、他の選手もこれ以上の成績をあげていただろうことは想像にかたくありません。藤原監督の仕上げは万全だったのです。

そうであるにも関わらず、藤原監督は、言い訳ひとつせず、選手をかばう言動に終始しています。この藤原監督の背中、卒業する選手達の背中を見て、来期に選手達が奮起しないわけがありません。きっと、悲願は達成されるでしょう。

私達にできるのは、白門飛躍募金をし、バックアップすることです。白門飛躍募金は、援助対象事業や団体を特定し、簡易に寄付ができる便利な制度です。藤原監督は、合宿や新しい器具等、どれだけ援助があっても嬉しい、と述べていました。

みなさまの力で、次回大会の中央大学優勝を目指して、陸上部の背中を押ししていきましょう!



第100回箱根駅伝大会スタート地点にて励ましのエールを送る、中央大学応援団とリーダー部の皆さん!!



2023年11月26日(日)

## 20周年記念大会 於 ハイアットリージェンシー東京

令和5年11月26日(日)、12時ジャスト。ハイアットリージェンシー東京の大宴会場の緞帳が静かに上がり、暗闇の中から中央大学杉並高等学校ダンス部のダンスが始まりました。同校ダンス部は全国レベル！3分程度の短い時間ながら、お客様の目は釘付けになり、大きな拍手をいただきました。

お客様にお渡しした式典パンフレットでは、まず開会宣言、それから根岸清一大会会長挨拶、それから杉並高等学校ダンス部のダンスと記載してあります。これは順番を間違えたのではなく、あえて印刷と違ったオープニングにした、大会エグゼクティブプロデューサー榎秀郎Lの粋な演出でした。

それ以降は、おおよそプログラム通りに進行し、参加クラブのご紹介、ご来賓のご挨拶、ビデオによる記念事業の発表および目録の授与へと進み、目録は18個の記念事業を代表して杉並高校ダンス部部長の亀甲桃花さんに受け取っていただきました。

記念事業発表のビデオ放映や目録受領を亀甲桃花さんに代表してお願いしたことにより、式典の時間が大幅に短縮できたことは皆様のご協力のおかげです。

約1時間の式典後、中山正暉終身名誉会長のウィ・サーブで懇親会が始まりました。テーブルインタビューでは中央大学の運動部の学生に新米250kgを寄付していただいた、与野新都心

LCの大熊元ガバナーのもとへ。学生達の血や肉となる貴重な贈り物に謝意を表しました。アトラクションでは、中央大学出身の弁護士でプロシャンソン歌手・小宮山澄枝さんの歌声と、来春は真打ち昇進！林家つる子師匠の「中大のお大尽さん落語」を楽しませていただきました。

この5年間で白門LC最大のアクティビティは、応援部を中心に結成された白獅子会支部(東京白門LC学生支部)が結成されたことではないでしょうか。白獅子会支部は毎月多摩キャンパスでの献血活動を行い、この度東京都赤十字血液センターより表彰されました。

アトラクションの最後は、白獅子会支部の応援団演舞、応援歌メドレー、リーダー部の演舞、プラスコー部の演奏(なんと指揮は学生支部結成の立役者、佐藤信行副学長!)。約25分の演技はお見事で会場の皆さんは真剣に聞き入っていました。

2時間の懇親会も鈴木誠終身名誉理事長に閉会宣言で修了させて頂くことが出来ました。約1年前に立ち上がった実行委員会の皆様、1年間ご苦労様でした。また、当日、早朝よりお手伝いを頂いた会員の皆様、ハイアットリージェンシー東京のスタッフの皆様、ご多忙のところ本日ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。感謝です。 【L河野信之・記】



第一部司会の宮崎副幹事長L、大久保幹事長L、林家つる子さん ライオンズクラブの歌を元気に唄う中山終身名誉会長ご夫妻と山浦元国際理事、石井元G、中井元G



開会時に勢揃いした歴代会長。左から水津、榎、星野、岩瀬、鈴木、中山、境、廣澤、田口、中西、横井、河野、松田、根岸 各L



根岸清一会长

中央大学杉並高等学校ダンス部による演舞

中央大学河合久学長



山浦晟暉元国際理事

中央大学塚原由紀夫  
常任理事

阿部かな子ガバナー

東京赤十字血液センター  
牧野茂義所長

中井正力元ガバナー

中央大学佐藤信行  
副学長

中央大学杉並高等学校  
ダンス部亀甲桃花部長





日本私立大学振興・共済事業団福原紀彦理事長



株式会社喜代村社長 木村清L



佐藤副学長より中井正力元ガバナーへサプライズプレゼント！元氣よくウォー！



中央大学・白門LC・白獅子会、東京赤十字センター牧野所長より日頃の献血活動の貢献に対し感謝状を授与



川越つばさ LC 沼田浩正前ガバナー



与野新都心 LC 大熊康雄元ガバナー



中村終身名誉会長ご夫妻と木村清Lとの談笑



元ガバナー卓のウィ・サーブ！



中山終身名誉会長によるウィ・サーブ！



林家つる子さんの名演技！



熱唱する小宮山澄枝さん(歌手・弁護士)



パフォーマンスに魅入る中山終身名誉会長ご夫妻



ご来賓・参加クラブを紹介する複エグゼクティブプロデューサー



第二部司会の佐野L、及川L



中大応援団プラスコアの演奏！！



母校の先生と談笑する学生



大学に寄贈した20周年記念刻字作品「一念通天」榎L作



中央大学応援団による迫真のエール！



鈴木理事長L、岡田L、塚原常任理事



元ガバナーの方々から熱のこもった拍手！！



中央大学応援団による迫真のエール！



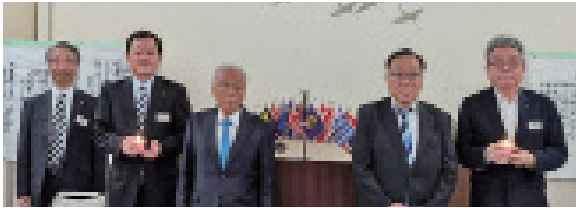
榎俊宏Lのエールで中央大学校歌斉唱



白獅子会メンバーがお見送り



## 2023年7月5日(水) 7月第一例会 於 法曹会館



新入会員の高野L、後藤L



7月お誕生日、茂岡L、宮崎L、西L、竹内L



松田前会長から根岸会長へバトンタッチ

## 2023年7月19日(水) 7月第二例会 於 シーボニアメンズクラブ



佐野L、増淵Lによるドネーション発表



和やかな会食風景



## 2023年8月23日(水) 納涼例会 於 中央大学茗荷谷キャンパス



茗荷谷キャンパスの食堂にて。白獅子会と共に集合写真



8月のお誕生日メンバー

## 2023年9月13日(水) 9月第一例会 於 法曹会館



司会の木村L



テールツイスター  
増淵L



櫻井L(元・副応援団長)からのエール



複合地区と330-A地区の委嘱状を授与

## 2023年9月20日(水) ガバナー公式訪問 合同例会 於 東武ホテルレバント東京



白門LCを根岸会長の挨拶



阿部かな子ガバナーを中心に皆さんでライオンズポーズ!



2023年10月4日(水)

## 10月第一例会 於 法曹会館



ライオンズクラブの歌斉唱



松田前会長によるウィ・サーブ

2023年10月13日(金)～14日(土)

## 五大学親睦旅行例会 於 山梨県石和温泉ホテルふじ

10月13日(金)～14日(土)、5大学親睦旅行例会(日大、明治、立教、法政、中央)が開催されました。コロナの関係で3年ぶりの開催で、今回の担当は駿河台LC。山梨県の石和温泉にて各クラブから多くのメンバーが参加いたしました。

温泉に浸かったあとは宴会が始まり、当日のゴルフ組の表彰、そしてビンゴゲームで和気あいあいと過ごし、各大学メンバーとの交流もあり、楽しいひとときを終えたあとは、2次会はカラオケタイム! 時間の過ぎることも忘れ、大変盛り上がりました。

来年はわが白門LCが担当です。皆さん、楽しい旅に参加しましょう! 駿河台LC幹事の方お疲れ様でした。【L大越武雄・記】



ゴルフ大会発表



公開挨拶



白門LCから大久保Lの挨拶



二次会はカラオケ大会

2023年11月1日(水)

## 11月第一例会 於 法曹会館



異L入会式挨拶



異L入会式



11月お誕生日、大久保L、鈴木終身名誉理事長

2023年11月15日(水)

## 11月第二例会 於 シーボニアメンズクラブ



20周年記念式典の最終確認



入会15年の表彰を受ける河野L

2023年12月20日(水)

## 12月第二例会 於 シーボニアメンズクラブ



キー賞を授与される佐藤副学長、河野L



ライオンズクラブの歌斉唱



12月お誕生日、中西L、後藤L、土屋L、榎L

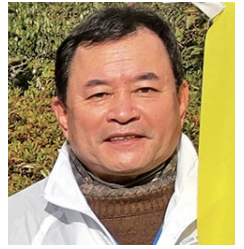


寄稿

## 中央大学の献血活動について

幹事長 L 大久保 英彦

[GST献血・献眼・献腎・骨髄移植委員会 委員長]



中央大学では、これまで年に数回、日本赤十字社だけで学内献血会を実施していました。日本赤十字社の要請により、2022年11月から新たなアクティビティとして献血会における呼びかけと記念品の提供が始まりました。一昨年8月に結成された白獅子会学生支部の皆さんの協力があり、これまで14回の活動を行い、献血申し込み者は731名、そのうち591名に献血を行っていただくという、330-A地区の活動の中でもトップクラスの実績です。また骨髄バンクのドナー登録者は20名という結果です。新型コロナ感染症の影響によりリモートでの仕事が増え、企業内で行う献血会が減っている中、若い学生が献血に協力することはとても重要で、患者さんの救命に役立っています。

献血会では、白門ライオンズクラブのメンバーが呼びかけを行っているため、日本赤十字社の職員は受付や検査への誘導、案内を行うことができます。白獅子会学生支部の皆さんは授業の合間や昼休みに会場に来て、呼びかけや献血に協力しています。当初は献血の呼びかけに戸惑いがありましたが、今では受付のテントに誘導、案内ができるなど戦力になっています。さらに、学内のSNSで献血会のポスターを配信し、協力を呼びかけるなど大きな貢献をしています。白獅子会学生支部の活躍は、330-A地区の地区ニュースで5ページにわたり特集され、佐藤信行L(副学長)と大石優花学生支部会長、永川凜会計がインタビューに応えました。また、リーダー部の奥津ひなたライオンが献血を呼びかける風景がPRビデオで紹介され、さらにラジオ番組では大石優花会長と牛込幸大ライオンが活動を介绍するなど、大きな注目を集めています。この活動が認められ、4月に行なわれた330-A地区年次大会では奉仕活動部門の優秀賞で根岸清一L(当時幹事長)と、会員増強部門の最優秀賞で佐藤信行Lが表彰されました。

献血の記念品はクラブで購入し、白獅子会学生支部の窓口に事前に送付され、学生支部で「東京白門ライオンズクラブ」のシールを貼り準備します。白門ライオンズクラブのメンバーも岡田孝子Lが歯ブラシを140本、星野紘紀Lがカラビナ(リュックに付けるフック)を50個など提供していただいています。今後も皆様のご協力をお待ちしています。

白獅子会学生支部は、応援団(リーダー部、チアリーディング

部、プラスコア部)総勢120名の中でライオンズクラブの活動に賛同した33名が中心となり、一般学生が2名加わり合計35名で構成されています。応援団は、日頃の練習に加え、土曜、日曜祝日は



記念品の除菌ウェットティッシュ

体育会の応援に駆けつけ活動しています。皆様おなじみの東都六大学野球やアメリカンフットボール、サッカー、ボート、ラクロス、アイスホッケーなど多種目にわたります。また、応援活動が早く終わると学校に戻り、インカレなどの競技会に向けて練習を重ねているようで、皆さんの体力と気力には驚くばかりです。

昨年9月16日に東京ドームで中央大学VS東京大学のアメリカンフットボールの試合があり、後輩の応援に行きました。中央大学側は応援団が約70名来て、リーダー部が団旗を掲げ迫力ある応援をしました。プラスコア部も試合の合間に演奏を行い、盛り上げていました。ハーフタイムショーではチアリーディング部のきれいに揃った演技に観客は魅了されていました。圧巻は3段に組まれたタワーのパフォーマンスで、大きなビジョンに映し出されると拍手喝さいを浴びていました。佐藤信恵応援団監督も来ておられ、怪我を心配されながら見守っていました。試合に勝利し、応援団、中央大学応援者と皆さんで歌う校歌は格別でした。試合に負けた東京大学に向け、牛込幸大Lが東京ドームに響き渡る迫力あるエールを送りました。皆さんの演技を見て、東京白門ライオンズクラブで応援団をさらに応援していきたいと思いました。

献血会では、午前の応援に来た学生と昼の休憩時に学校生活やクラブ活動、就職などの話を聞けるのが楽しみです。まだお越しになられていないメンバーの皆様も、是非多摩キャンパスに足を運んでいただき学生と触れ合っていただければと思います。献血会終了後は毎回、多摩センター駅にある蕎麦屋で反省会と称して楽しい飲み会を行っており、スケジュールが合えば白獅子会学生支部の皆様も参加していますので、メンバー皆様のご参加を心からお待ちしています。



休み時間の学生たちに呼びかけを行う



骨髄バンクもしっかりPR



岡田孝子Lも活動に参加



## ライオンズクラブ国際協会330-A地区 献血・骨髄バンクドナー登録活動

1月2日(火)と3日(水)の2日間、増上寺で恒例の献血と骨髄バンクのドナー登録会が行われました。

1日(月)夕方には能登半島で大地震が起こり、その日の夜に阿部ガバナーから募金活動ができないかと問い合わせの電話がありました。ライオンズクラブの受付テントでは実施できるが、参道でできるかは増上寺に確認しないと何とも言えないとお伝えしました。阿部ガバナーはライオンズクラブのメンバーに会場に来て協力して欲しいと多方面に連絡を行いました。

2日の朝、増上寺に献血実施のご挨拶に行き、そこで能登半島地震の募金活動ができないか、お願いをしたところ「参道での募金活動は通常は許可していないが特別に了承する」という回答をいただき、献血の呼びかけと共に募金活動を行いました。2日間でライオンズクラブのメンバー103名の参加があり、白門LCから根岸会長、榎L、大越L、茂岡L、増淵L、松田L、横井L、土屋L、そして白獅子会の大越秀人L、私を含め10名が参加し献血の呼びかけを行いました。参加したライオンズクラブの中でも群を抜いて多い参加者でした。増淵Lは献血にも協力していただきました。

参加された皆様、毎年のご協力ありがとうございます。

献血者は2日間で143名、骨髄バンクのドナー登録は17名という過去最高の結果となりました。骨髄バンクのドナー登録説明員として、中央大学法学部4年生の中根悠貴さんが参加しました。中根さんは大学3年生の時に骨髄バンクのドナーとして患者さんに造血幹細胞を提供しました。その後、日本骨髄バンクのドナー登録説明員の資格を取り、献血会場で登録の説明を行っています。3月22日(金)に開催する「献血・献眼・献腎・骨髄移植セミナー」で中根さんの体験談を話していただきます。メンバーの皆様、どうぞ参加していただき理解を深めてください。

能登半島地震の募金活動は様々なクラブが取り組んでいます。増上寺で行った募金が最初の活動になりました。ライオンズメンバーと参拝に来られた皆様の協力により、約51万円を集めることができました。ライオンズクラブの協力が輸血を待つ患者さんや被災地に大きく貢献しています。石川県では献血ルームや献血バスが稼働できず、東京から血液を運搬して対応するという緊急事態でしたので、日本赤十字社の職員がたいへん感謝していました。



1月3日撮影、協力者の皆様ありがとうございました

## 新入会員紹介



巽 敏彦 たつみ・としひこ  
正会員(スポンサー佐野友映L)  
昭和50年4月12日生  
平成14年文学卒  
株式会社福路 代表取締役

### スポンサー佐野友映Lから一言

在学時よりビジネスを行うアグレッシブな一面を持っており、就職してからも、建設業界でその力をいかに発揮しています。起業してからは持ち前の社交性も活かし、業容を拡大しています。当クラブでの大いなる活躍が期待できる逸材です。

## 編集後記

東京白門ライオンズクラブの20周年記念大会が素晴らしい式典だったと、各方面からお褒めいただき、嬉しい限りです。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

第100回記念大会となった箱根駅伝では「中央大学優勝」のアドバルーンを掲げたかったところですが、残念ながら結果は13位となりました。エントリー選手の16名中14名が開催前に風邪に罹患したそうで、一時出場辞退も考えたほど最悪の不調だったようです。来年は今年の分を取り返してほしいと願います。

【L大越武雄・記】

## Quarterly of Lions 2023.7-12/2024.1 No.31

発行日 2024年1月20日

発行人 L根岸 清一

編集/総務・広報委員会 委員長 L大越 武雄 副委員長 L茂岡幹弥  
コーディネーター L榎 秀郎

発行所 東京白門ライオンズクラブ

事務局 八王子市南大沢3-14-4-304 TEL/FAX.042-676-4147

制作協力 株式会社 ノラ・コミュニケーションズ

白門ライオンズ会報 揮毫 L中山 正暉





2023.7 ~ 2024.6

白門ライオンズの誓い  
我々は、会員相互の友情  
の絆を基に、同窓・学員の  
信頼を深め、知性の根源  
である中央大学の発展に  
寄与することを誓う。  
東京白門ライオンズクラブ

クラブスローガン

白門の絆を奉仕で結ぶ母校愛

東京白門ライオンズクラブ

白門ライオンズクラブ 🔍

<http://hakumon-lions.org>